

上野幌・青葉地域

小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2015.4.10 第4号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

第4回検討委員会 について

3月5日（木）午前10時から、上野幌小学校で第4回の検討委員会を開催しました。

前回の検討委員会の中で発案があった統合パターン案を含め、これまでの意見の論点整理を行いながら検討しました。また、今年度の検討委員会の運営体制についても検討を行いました。

報告事項

個別に寄せられた
意見について

第3回検討委員会以降、特に事務局や各委員に意見などは寄せられていません。なお、前回の検討委員会の中で委員から将来的に青葉地域の子どもの数が増加するのではないかとの意見がありましたが、委員が再度資料を精査したところ、やはり減少する見込みであるとの訂正報告がありました。

検討事項について

第4回検討委員会では、これまでの統合パターン案に加えて、新たに3校を1校に統合した場合も含め、これまで検討した統合パターンに関する論点整理を行いながら、検討を行いました。

■追加検討項目 3校を1校に統合した場合について

青葉小学校の校区



バス通学を検討する必要があるのは、上野幌西小学校を活用した場合のみ（約2.2km）

■青葉小学校を除く3校を1校に統合した場合のメリット

- ・青葉小学校を除いて、教育委員会の考える望ましい規模（18～24学級）を確保できる。
- ・自治連合会、町内会連合会の区域と校区とのずれが少ない。

■検討が必要な事項

- ・青葉小学校については、将来、児童が大幅に増えない限り小規模校のままなので、検討する必要が生じる。
- ・3校を1校に統合した学校と青葉小学校の、児童数および学級数、校区の広さについて大きな差が生じるので検討する必要が生じる。
- ・国道274号を横断する際の安全確保について検討する必要が生じる。
- ・児童を受け入れるためには、校舎の大規模な工事が必要となる場合が多く、工事の内容や期間を含めて検討する必要が生じる。
- ・小学校区よりも中学校区の方が小さくなるため、中学校についても検討する必要が生じる。
- ・活用する校舎によっては、通学距離が2kmを超えることが想定されるため、バス通学を検討する必要が生じる場合がある。
- ・厚別南地区センターについての検討が必須となる。

■ 統合パターン案に関する意見の論点整理について

■ 検討委員会で出された意見の再確認

- ・ 基本的な考え方に対する意見
- ・ 国道274号に関する意見
- ・ 4校を1校に統合する場合のメリットや課題
- ・ 4校を2校に統合する場合（国道274号で南北に分ける）のメリットや課題
- ・ 3校を1校に統合する場合（青葉小学校を除く）のメリットや課題

委員から寄せられた 主な意見

検討に関して、委員から以下のような主なご意見がありました。

<統合パターン案について>

- どの程度の学級数が適当なのかという問題があるが、現時点で4校を1校にすることが望ましいとは思わない。
- 多くの保護者が3校を1校にするパターンには不安を感じているのではないか。最も通学などで安全なのは4校を2校にするパターンではないか。
- 3校を1校にするパターンだと、青葉小学校を今回の議論からはずすことになり、小規模校の状態が続くことになる。仮に3校の統合校に上野幌西小学校の校舎を活用した場合などでは、青葉小学校は将来的に廃校することが決まってしまうのではないか。
- 将来的に安定した学級数を確保できる3校ないしは4校を1校にするパターンが良いと考えていたが、中学校での別れが大きなネックになることから、それが解消されないのであれば4校を2校にするパターンが望ましい。
- 今後の検討に際して、中学校での別れの問題は大きい。将来的には中学校の校区変更も念頭に置いて議論していくべきだが、この点で3校を1校にするパターンは拙速である。
- 今の状態は、学年が上がって1クラスになったり、2クラスに戻ったりと不安定な人数なので、子どもをみていたらかわいそうだ。
- 当初はもっと将来のことを考えるべきと思っていたが、今の子どもが快適に過ごせることを第一に考え、20年後にまた統合を検討するようなことがあってもいいのではないか。
- 毎回いろいろなパターンが出て、それぞれに意見が出されている

が、子育てをしている世代からすると、今ひとつ統合の必要性を含めて身近に感じない。

- 4校を1校もしくは3校を1校に統合した場合、中学校に入学の際に友達と離れることになってしまう。高校や大学は仕方ないにしても、小学校で培った人間関係がなくなるのは、児童からすると寂しい気持ちが大きいと思う。

<通学などにおける国道274号の横断について>

- 事故が起きているのは国道274号よりも生活道路の方であるが、国道は幅が広いため、安全に渡るための見守りなどを考えていかなければならない。
- 4校を1校もしくは3校を1校に統合した場合、あえて校区の端の学校を使って、多くの児童に国道274号を渡らせることには心理的に抵抗がある。
- 国道274号の危険は地域の方の見守りがあれば回避できるのかもしれないが、最終的な責任はやはり親にあるので、親としてリスクは低い方がよい。

<今年度の検討について>

- 児童数の推計値については、今後の転入数増加なども考えられることから、慎重にみていく必要がある。
- 4校をどうすべきなのかという議論と、子どものためにどうすべきなのかという議論を、うまく一致させていくべき。現状では様々な思惑や考え方などがあるが、期限を決めて27年度からは実質的な議論に入るべきである。
- これまで様々なパターンを検討してきたが、正直具体的なイメージがわからない。子どものためといった視点から、クラス替えができる人数を確保するなど、より具体的に検討していくべきではないか。
- 子どもの数を考えると統合というのは自然の流れであると感じているが、今はまだ、議論が尽くされておらず分科会を設置するような段階に来てはいないと思う。
- P T Aと町内会の考え方はどうしても異なるので、まとまらないのではないかと。地域として一番心配しているのは、小学校がなくなり若者が住めなくなることを恐れている。

- 実際にもみじ台地区の統合を経験した立場からすると、やはり統合にはデメリットはつきまとう。これを完璧に払拭することが不可能なら、子どもにとって魅力ある学校をつくっていくことしかない。
- 今、最も避けるべきなのは、委員が交代してまた一から議論をし直すことである。この1年間やってきたことを、次年度の方々に引き継いでいけるかにかかっているが、ある程度方向性を説明できるようにしておくことが、我々の責任である。

■ 今年度の検討委員会の運営体制について

今年度の議論の進め方について

これまでの意見や検討を踏まえ、一旦は4校を2校に統合（国道274号で南北に分ける）するパターンを見据え、具体的な課題検討を行っていくこととしました。

- ・引き続き検討委員会で議論を重ねていき、これまで同様、検討委員会ニュースやホームページで保護者や地域の方々へ情報提供を行います。
- ・区域ごとの独自課題について検討が必要な場合は、区域ごとに関係する団体で「分科会」を設置して行っていきます。

検討委員の交代について

各団体役員の改選が想定されますが、この検討委員会は団体の役職にこだわるものではないため、委員の交代については、各団体の判断に委ねることとなりました。

第5回の検討委員会について

第5回の検討委員会は、5月下旬～6月上旬の開催を予定しており、4校を2校に統合（国道274号で南北に分ける）するパターンの具体的な検討を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい** ■

■ 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局 ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル
T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>